

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400108		
法人名	特定非営利活動法人 里・つむぎ八幡平		
事業所名	グループホーム ぱんたれい		
所在地	〒028-7112 八幡平市田頭22-108-4		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和7年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	[評価機関：特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関(みんなのクリニック:盛岡市みたち)と連携を図り、当施設で看取りのケアまで行っている。新型コロナウイルスに油断を許さなかった時期でも、利用者様を中心に、ご本人の思いやご家族様との関りを重要視し、その思いを実現させながら行ってきた。看取り期ではなくても、利用者様を中心として、その思いを叶えられるように、余暇活動の充実を図っている。法人の地域社会活動でもある「すばるマルシェ」への参加や、地域のイベントへの参加など地域活動へも積極的に参加している。
法人の取り組みとしては、法人内研修を行い職員が学べる機会を設けている。研修に参加できなかった職員に対してはDVDと資料の配布を行い、必要となる知識を得る機会を作っている。また事業所としても、法人内研修での学びが活かせるように委員会活動の中で、振り返りを兼ねた事業所内研修も行っており、研修内容の周知と定着も図っている。法人理念でもある、「共生(ともいき)でつむぐ笑顔と安心の里づくり」を指針とし、職員一人ひとりが周囲の方々と笑顔で過ごし、ふれあいの心持ちとは何かを考え、理想の環境に近づけるよう日々関わり、努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡平市の旧西根町中心部から県道を西に約1km進んだ田園地帯にある1ユニットのグループホームである。運営母体の里・つむぎ八幡平は、認知症対応型及び障がい者型グループホーム、小規模多機能ホーム、古民家食堂などを多彩に運営している。開設以来、面会制限を設けず、家族等との関係維持を大切にしている。食事は献立から調理まで職員が手作りし、食材は有機JAS認証を取得した関連法人が栽培する米や野菜を多く使用している。入浴は週3回で安眠効果などにつながっている。排便ケアのプロの育成を目的とした「pooマスター養成研修会」を職員が受講して気持ちよい排便を支援している。外出支援は自然豊かな立地環境を生かして春は花見、夏は隣町の田んぼアート、秋は溪谷の紅葉狩りなど近場へドライブしている。看取りに関する指針を策定し、本人・家族の理解を得ながら協力医療機関との連携の下、可能な限り事業所で尊厳ある最期を迎えられるよう支援に努めている。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲示すると共に、毎月の事業所会議の中でも理念に触れている。理念にある思いに沿って、利用者様、ご家族、地域との関りについて実践し考える際の土台となっている。住み慣れた場所で、身近な人と最期まで関りが持てるよう配慮された環境設定が定着しつつあると考えています。	令和4年度に理念を「共生(ともいき)でつむぐ笑顔と安心の里づくり」と改めた。理念を事業所の壁に掲示し、家族に送る通信文にも掲載している。理念に基づいた年間目標を毎年設定し、今年度は「利用者・家族・職員皆が、笑顔の絶えない居心地が良くなれるように、声をかけ合い、助け合いのある、ぱんたれいにしよう」を掲げて、日々のケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の地域社会活動である「すばるマルシェ」の他、傾聴ボランティアの受け入れ、地域のお祭りなどの季節行事へ参加しています。また地域住民の方に定期的な避難訓練に協力いただいています。	事業所の駐車場近くにある法人経営の食堂を活用して「すばるマルシェ」を毎月開催している。焼きそばやけんちん汁などを販売する屋台も出店し、利用者の他に地域の方々も100名程度顔を出してくれている。事業所の避難訓練にも近所の地域協力隊員2人の協力を得ている。母体の法人では他の法人と協力し、認知症に関するシンポジウムを開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の地域社会活動である「すばるマルシェ」の中で、「ともいきカフェ」として介護相談の窓口を設け、認知症についてのフリー資料や血圧計を置き、簡単な健康チェックが行えるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の代表の方の好意にてバラ園を見学させていただいたり、認知症や看取り期を迎える前に行えることとして「私の生きるノート」を利用し地域ごとに工夫されていることなどを参考にさせていただいている。会議の中で代表より「もしばなゲーム」など人生の選択肢や高齢になることについて考える機会が設けられるなど、参加者の多様な意見交換にもつながっている。	運営推進会議には利用者家族、地域の警察職員、市の職員、地域住民(元利用者家族)、消防職員(年に1回)が参加して2ヵ月に1回、対面方式で開催している。ヒヤリハットを含め利用者の様子や行事の実施状況などを報告し、委員と意見交換を行っている。地域住民の代表は以前利用者の家族だったこともあり、両方の立場から有益な意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としては運営推進会議に市役所の担当の方に参加していただき、情報提供を行い意見を伺うなど情報を共有しています。	市の健康健康福祉課の職員が運営推進会議に参加しているほか、地域包括支援センターに介護保険に関する相談を行っている。利用者の中に生活保護受給者がいるため市のケースワーカーが調査のため毎年来所している。また、市主催の地域ケア会議にも参加している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関に「身体拘束ゼロ宣言」を掲示し職員に周知しています。また法人内研修の必須項目として、年間予定に組み込み毎年学ぶ機会を設けています。身体拘束のフィジカルロックだけではなく、スピーチロック、ドラッグロックについても同様に研修内で行っています。	法人全体で3か月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、事業所単独でも年に2回の研修会の他に毎月の勉強会とDVDを活用した研修を行っている。所内の壁にスピーチロックに関する戒めの言葉を掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修にて高齢者虐待、不適切ケアについて学ぶ機会を設けています。また認知症の研修も行い、言動や行動の背景を理解しより良いケアが提供出来るよう努めています。自傷他害の危険性がある場合は、かかりつけ医の他、専門医療機関への受診も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修の他、特定の職員だけでなく外部研修へも参加している。 主に管理者や介護支援専門員が幅広く知識や経験を有している事で、家族の方、本人、施設の仲介になる場合が多いが、事業所内の介護士にも相手の立場や認知症等の状態を背景に個人の気持ちを考えられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人及び、ご家族の不安や疑問点を理解し、納得・安心してご利用いただけるよう努めています。法改正等があった場合はその都度分かりやすい説明と、疑問点の解決につながるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からご意見ご要望等があった場合は速やかに会議を開催し対応しています。また意見箱を設置し施設のサービスの向上に繋がっています。	面会、通院のため来所した家族等から聞いたり、運営推進会議の場で利用者・家族の代表から意見を聞いている。文章と写真で利用者の日常や行事などの様子を載せた「ぱんたれい通信」を毎月発行し、家族等から安心感を得ている。利用者のふるまいについて、入居前に家族から成育歴などを詳しく聞いて対処したところ、落ち着いたケースもある。また、意見箱を設置しているが、家族等からの意見提出はあまりない。	運営推進会議を含め、家族等が気軽に意見や要望が表せるような工夫を期待したい。意見箱の設置に加え運営推進会議の場を含め、家族等がより気軽に意見等を出しやすいよう、工夫されることを期待する。

事業所名：グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やケース会議で職員から意見を聞く機会を設けています。事業所の月ごとの目標設定は職員が持ち回りで行う等、事業所全体で関わりを持ち取り組んでいます。また普段からコミュニケーションを取り話しやすい雰囲気作りに努めています。	毎月開催する運営会議に代表も出席して意見を聞く機会を設けている。年度末に代表者や事務長が職員と面談し、それぞれの職員の思いや目標を聞いている。最近、手すり設置の提案が出され現在具体化に向けた検討を進めている。普段から代表者、管理者と職員とのコミュニケーションはよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の経験や資格取得及び日々の仕事の取り組み状況を勘案し給与へ反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年法人研修の年間予定を作成し、4月～11月まで実施しています。また3月頃には各事業所の取り組みを発表する機会を設けています。施設外研修に関しては実務者研修、認知症実践者研修、管理者研修、GH協会の研修等の実績の他、外部講師を招いての特別研修も行いました。業務の中で各アセスメントシートの活用を行い、視点を養うように働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修参加の他、事業所発表会には他施設からの見学者も招いて実施しました。どの施設も感染症対策により、研修が行えていないことがあるようで大変参考になったと話されていました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を基に利用者プロフィールを作成し、職員間で情報を共有しています。また入居時にはご本人、ご家族から聴き取りを行い、ご本人に寄り添ったサービス計画を作成し統一したケアを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と複数回面談や電話で話し合いを行い、不安や疑問にお答えしています。またご希望があれば施設見学も行っています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を確認すると共に、ご本人、ご家族の意向を踏まえながら入居時の状態をアセスメントし、ご利用者様に必要な支援を導き出し自立支援に向けたケアを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭生活の雰囲気を大切にし、食事作りから片付けを一緒に行ったり、洗濯物たたみや掃除等ご利用者様と職員が協力し支え合いながら生活しています。また自家菜園での種まきから収穫、花の苗植えや干し柿作りなど、利用者様の残存機能を活かしながら生活の支援のお手伝いを取り入れています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて利用者様の様子をお伝えし、病院受診の付き添いや、ドライブに連れて行ってもらうなど、家族との関係性を大切にしています。また令和6年9月～11月までコロナウィルス等の感染症の状況に配慮しながら居室での面会を解除するなど、今の生活の様子やご本人とゆっくり過ごせる時間も設けました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも兄弟や親戚、お孫さんの面会があり、ご本人の刺激になっています。外出する機会は少ないですが、今年はご法事へ出席される方もいました。近所への散歩やドライブ、畑作業なども気分転換となっています。	開設以来、コロナ禍でも面会制限を一切行わず、家族との関係が途切れないように努め、法事出席のため家族等と一緒に実家に外出する利用者もいる。6～7年前から毎月訪れてくれる市内の傾聴ボランティアのグループとも、新たな馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いの食器拭きは交代でお願いしています。またおやつやレクリエーションの席は固定せず、利用者同士が触れ合える機会とし、職員は間に入り橋渡しの役目を担っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中からご家族との関係性を大切にし、退所されても相談があった場合には、その内容に沿った具体的な支援を心がけています。また地域の代表として運営推進会議委員への協力もお願いしています。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人、ご家族からニーズ(意向や思い)を確認し、また普段の生活の中での言動や表情の観察、聴き取りを行いながら把握している。本が好きな利用者様には法人の図書コーナーに本を借りに行ったり、利用者様の希望を聞きながらお花見や紅葉ドライブに行っている。	意思疎通が困難な利用者については、表情や仕草から希望を把握している。利用者のこれまでの人生を聞き取って書き留め、職員が共有することにより、個性を尊重した親身のあるケアの実践に努めている。行動の原因が不明な利用者の家族から聞き取りを行ない、その内容をもとに対応を検討し支援した結果、落ち着きを取り戻すことができた利用者もいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を基に普段のコミュニケーションや家族の情報などから、利用者様の過ごされてきた時代背景を把握し、施設生活にも生かせるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌にて日々の状態把握に努めると共に、職員間でも情報を共有している。また小さな変化でもその日の出勤職員で話し合いながら、その方に合わせた過ごしやすい環境づくりを心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の様子や変化、主治医の意見も含め個人経過記録(ケアチェック要約表)を作成している。それを基に3カ月ごとにモニタリングを行い、ケース会議にて検討している。ご本人、ご家族の意向を確認すると共に、定期受診時の主治医の意見も取り入れ介護計画を作成している。	居室担当者を敢えて決めず、職員全員がLINE(モバイルアプリ)で利用者の様子を随時共有している。3ヵ月ごとに全職員のモニタリングに基づいてケース会議で検討し、6ヵ月ごとに計画を見直している。見直しの際には、利用者一人一人のADL(日常生活動作)や日々の生活状況を記録したケアチェック要約表に基づいて行っているほか、主治医の意見や家族等の希望も盛り込んでいる。計画作成後は家族に説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態の変化、気づきなどは業務日誌とiPadに記録し職員間で共有しています。また個人経過記録(ケアチェック要約表)を基にケース会議で話し合い介護計画の見直しに活かしています。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本が好きな利用者様は個別で事業所内の地域交流室と一緒に本を借りに行ったり、また月に1回の「すばるマルシェ」に参加され地域の方との交流を図っています。天候や職員体制をみながらドライブに行くなど希望・要望を聞きながら柔軟に対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人の夏まつりで地域の方の余興を楽しんだり、「すばるマルシェ」への参加、また月に1回程度傾聴ボランティアの方が来所されるなど地域の方と交流する機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族が納得された病院で、家族又は職員の付き添いで対応している。状態が変化された際は、電話やFAXで主治医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援しています。	八幡平市立病院に2名、盛岡市の病院に6名、滝沢市の病院に1名と、利用者・家族の希望する病院へ通院している。歯科と眼科は市内の開業医を受診している。家族が同行して受診する際には、ADL(日常生活動作)などを記録したケアチェック要約表を手渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化時や突発的な事故が生じた場合は主治医または医療機関へ連絡をして対応しています。他医療行為が必要な場合や皮膚状態、爪の状態を見ていただく際には、法人の看護師とも連携できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、適切な医療が受けられるよう情報提供を行い、また病院側と情報を共有しながら安心した入院生活と、退院後の支援に向けて連携を取れるようにしています。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に、終末期ケアと事業所の方針をお伝えし、同意を得ています。また主治医と情報を共有しながら、看取りが必要になった段階でご家族に説明を行い、ご家族の同意のもとサービス計画書を変更し、本人・家族・職員・医師・看護師がチームで支える体制を整えております。	看取りに関する指針を策定し、入居時に本人、家族に事業所として出来ることを説明し同意を得ている。急変時には協力医療機関への救急搬送等の必要な措置を講じているが、可能な限り事業所で尊厳ある最期を迎えられるよう支援に努めている。開設以来、約15名の看取りを行っている。経験ある先輩職員が未経験者に助言してサポートに努めており、看取りの不安要素は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル(フロー)を作成し、定期的に更新を行いながら職員にも周知を図っています。令和4年度に近隣の消防署職員に依頼して、救命救急処置の講習を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に3回(火災2回、水害1回)避難訓練を行い、全職員が訓練出来るよう調整しています。また地域の方にも協力隊をお願いして、訓練に参加していただいています。	年3回避難訓練を実施し、うち2回は火災、1回は水害を想定している。火災避難訓練では、消火器を使った消火訓練を行い、消防署職員が立ち会うほか、地域協力隊2人が参加している。ハザードマップ上浸水想定区域にはなっていない。備蓄は3日分の食料のほかガス発電機も備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修の中で、権利擁護や認知症の理解などについて勉強し、利用者様一人一人のプライバシーや尊厳が守られるよう努めています。また運営会議などで言葉遣い等気になったことは話し合いながら、サービスの質の向上に努めています。	利用者一人一人の生活歴を全職員が共有し、それぞれの人格を尊重した支援や接し方に努めている。言葉遣いに注意し、利用者の呼称は苗字又は名前にさんを付けている。入浴や排泄時の衣服の着脱時の声掛けを含め、尊厳の維持を大切にケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、「マルシェに行きたい。」とか「散歩やドライブに行きたい。」など利用者から話をされることがあるので、職員体制を見ながら利用者様とも相談しながら希望に添えるような対応を行っています。またレクリエーションでは、散歩や塗り絵、裁縫など選択肢の中から利用者様の意向に沿って行えるようにしています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や排泄、入浴などその日によって利用者様の気持ちや状態にも違いがある為、その方に合わせた対応を行っています。また利用者様から希望を聞き、職員側からも提案を行う等自己選択、自己決定出来るような働きかけや、24hシートの活用など利用者様の状態、状況を把握しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを準備する際には、本人に選んでいただくようにしています。また、ご家族が本人へと準備していただいた衣類なので、様々な物を着ていただけるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に昼食作りを利用者様と行っています。準備から片付けまでを行い、食器拭きは日課としています。またおやつレクでは季節のおやつ作りを行い、利用者様の手際の良さを感じています。食事の際など食べたい物を話して下さることも多く、また年に2回の嗜好希望調査などを参考に食事を提供しています。	食材の調達、献立作成から調理まで職員が行い、手づくりの味を提供している。食材は法人が栽培している有機JAS認証を取得した米や野菜などを使用している。年2回利用者の嗜好調査を行い、希望の多い料理、例えば麺類、食パン、刺身、ひつまみなどの郷土食を提供し好評である。誕生日には職員がケーキをつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに毎食の食事・水分摂取量を記録しており、記録を見ながら食事やおやつ以外の時間でも摂っていただいています。食事の量は、定期受診の医師の診察結果や採血結果をもとに、利用者の体格や普段の食事摂取量、毎月の体重測定結果などを参考に提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、見守りから一部介助で行っています。義歯がある方は、夜間に預かり職員が毎日義歯洗浄行っています。義歯が合わなくなってきた場合や破損など必要に応じて歯科の往診を依頼しています。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	POO委員会を中心に、一人一人の排泄リズムを把握し、食前・食後、本人の状態を見ながらトイレ誘導を行っています。また立位不安定な方でも、排泄の意思を確認しながら職員2人介助でトイレ介助を行っています。	排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導している。6年前から排便ケアのプロの育成を目的として全国的に実施されている「pooマスター養成研修会」をZOOMを用いて職員3人が受講しており、下剤などに頼らない気持ちよい排便を支援している。夜間にポータブルトイレを使用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	POOPPOO体操を日課とし、排便チェック表を確認しながら、腹部マッサージや温め、水分摂取を促しています。また個別に乳製品を食べていただくなど対応しています。マッサージや運動など予防を行い、便の性状の観察や必要時には医師へ相談するなど、極力薬に頼らず排便コントロールが出来るよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本とし、受診や体調不良などその日に入浴出来ない場合は調整しています。入浴剤を入れたり、冬はゆず湯やかりん湯など入浴を気持ちよく楽しんでいただけるような工夫も行っています。	利用者は、週3回午前中に入浴を楽しんでいる。入浴回数を多くすることによってリラックスや安眠効果につながっている。入浴を拒否する人には無理強いせずタイミングを見計らって柔軟に対応している。男性職員もいるので異性介助の場合もあるが、利用者からの抵抗感はない。ゆず湯、かりん湯のほか、入浴剤も使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を尊重し、出来るだけ個々に合わせて対応をしています。夜間に安眠出来るよう日中の活動も考え、また昼寝の効果も重要と捉え休んでいただいています。夜間になかなか寝付けない場合にはココアなども活用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表にて個々の服薬内容の把握に努めています。服薬内容に変更があった場合には、薬剤師から副作用など注意する点を聞いて職員間で共有し、内服した際にも利用者様の様子など気を付けて観察しています。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のコミュニケーションや生活歴などを参考に、塗り絵や裁縫、野菜作り、またドライブや読書が好きな方は本を借りに行くなど個別の対応も行っています。地域性もあるかと思いますが、農作業や花を世話をしてきた方も多く畑やプランター作業を楽しまれています。今年はティータイムに施設の隣にある食堂にケーキを食べに行ったり、数カ月に1度居酒屋を開催するなど、楽しみが持てるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉ドライブ、田園アートの見学など季節を感じていただけるような外出支援を行っています。また本が好きな方は法人の図書コーナーに本を借りに行ったり、ひもときシートを活用し、昔の楽しい思い出を想起していただけるよう家族様に協力していただき岩泉までドライブに行かれた利用者様もおります。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、100mほど離れた利用者の実家のバラ園を見に歩いて行く人もいます。事業所の畑で作業をする人も半数ほどいる。春は市内の運動公園で花見、夏は岩手町一方井の田んぼアート、秋は松川溪谷の紅葉狩りなど、季節のドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方針として現金の所持は遠慮いただいています。必要物品などは家族に相談して購入していただくか、施設の買い物の際に立て替えて購入しています。お祭りの際は現金の代わりに食事券を使用し、食べたいものを購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時にはその都度対応するなど、個々の希望に沿って対応しています。令和5年度より年賀状を利用者様に書いていただいています。家族様は、ご本人が書いた年賀状をととても喜ばれている様子です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には利用者様の作品や、季節を感じられる装飾を行っています。利用者様は歩行される方から車イスでの移動など様々である為、お互いが移動しやすいスペースを確保出来るようテーブルの配置を考えています。また温度計や湿度計を確認しながら、換気をするなど過ごしやすい環境も整えています。	床はフローリング、壁は白を基調とし、天井も高く解放感がある。バルコニー越しに雄大な田園風景を望むことができる。エアコン、ガスのパネルヒーター、空気清浄機が設置され、1年中快適に過ごすことができる。壁には季節を感じさせる利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気を感じられる。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ぱんたれい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	岩手山や外の田園風景等、外の景色を眺める事ができるスペースや、利用者様同士がお話しをしたりテレビを見たりする場合には交流できるようなスペースなど、職員側でも配慮しながら過ごしていただいています。また食事以外は特に席を決めずに自由に座っていただき、それぞれの時間を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は出来るだけ使い慣れた家具や写真等、思い出の物を持参していただき、部屋の見える場所に飾るなど安心できる空間作りに努めている。	居室にはベッド、ガスストーブ、タンス、扇風機が備え付けられ、利用者は好みに衣装ケース、アルバムのほか、歌の好きな人はラジカセを持ち込み、居室で歌を歌っている。壁には家族写真や自分の作品などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリー設計の為、歩行される方や車イスの方にも安全に移動していただいています。また案内表示を設置し、廊下や浴室には手すりを設置するなど、安心して移動出来る環境も整えています。利用者様の日々の体調や記憶内容の変化も考慮しながら、職員が日々寄り添い支援しています。		